

# MF-TOKYO 2019 学会テクニカルセミナー・大学研究室発表会 「若い人たちに塑性加工の魅力のアピール」

(一社)日本塑性加工学会 桑原利彦・産学連携委員会委員長に聞く

MF-TOKYO 2019 の期間中、塑性加工の最先端技術に携わる研究者、技術者による成果発表会が行われる。特別協賛する日本塑性加工学会では最新の技術情報などを発信する「学会テクニカルセミナー」、「大学研究室発表会」を開催し、大学発のシーズと企業ニーズのマッチングに期待を寄せている。今回のセミナー、出展ブースの狙いや見どころ、大学生をはじめとした若い人たちの来場者数アップへの取組みなどについて日本塑性加工学会 産学連携委員会の桑原利彦委員長（東京農工大学教授）に聞いた。

——最新の塑性加工技術が紹介される日本塑性加工学会の「学会テクニカルセミナー」、「大学研究室発表会」は MF-TOKYO の目玉の一つとして定着してきました。

桑原 学会テクニカルセミナーは日本塑性加工学会、レーザ加工学会、日本ねじ研究協会、日本ばね学会などの教授や開発担当による鍛圧機械の最新加工法や技術の発表を行います。今回は日本塑性加工学会の 2018 年学術賞を受賞した「軽量部品のプレス成形、塑性接合、板鍛造の開発」（豊橋技術科学大学・安部洋平准教授）や技術開発賞

の受賞者による講演をはじめ、IoT を活用したプレス成形の状態監視や成形シミュレーションの高精度化、マグネシウム合金の医療への適用、CFRP といった軽量素材をテーマにした取組みなど大学、企業などの最新の研究テーマが披露されます。シンポジウムでは「ホットスタンピング」（コーディネータ：豊橋技術科学大学・森謙一郎特任教授）をテーマに自動車の高張力鋼板への適用についての動向を取り上げます。

また、「大学研究室発表会」は塑性加工に取り組む主要大学の研究内容が開示され、パネル展示とあわせて、大学でどのような研究が進められているかを知る良いチャンスです。大学の研究室と企業がシーズとニーズを結びつける場でもあり、実際、過去のセミナーをきっかけに産学連携の共同研究が生まれた実績もあります。

——業界を担う若手の参加も期待されています。今回はどのような仕掛けを考えられましたか。

桑原 前回から協賛企業によるルートマップを作成し、学生や若い人たちに興味を持ってもらえる取組みを始めています。今回はルートマップにスタンプラリーを取り入れて、協賛企業のブースを訪問して 5 社のスタンプを集めると先着 100 人にクオカードをプレゼントする企画を予定しています。大学生をはじめ、中学生や高校生、高専の生徒たちに来場してもらうことが将来の人材育成に向けて重要です。国内外の主要なプレス機械や板金機械を見られる数少ない機会ですので、会場に来て実際に体感してもらいたいですね。

また、今回は大学から会場への無料バスの運行も予定しています。試験的に第 1 弾として茨城大学（日立キャンパス）と東京農工大学（東小金井キャンパス）～早稲田大学（西早稲田キャンパス）の 2 ルートで期間中 1 回実施します。昼食の弁当も用意しているので、気軽に活用して欲しいと思います。



「学生と企業の専門家が研究テーマについて直接対話できるのが本展の魅力の一つ」と桑原委員長